令和7年度　自己評価　まとめ

みなみの保育園

	評価すべき点	課題点
総則・保育理念・目標	・保育理念や保育方針は、説明会等で保護者にも伝え、クラス内にも掲示している。 ・園の保育理念を理解して、日々の保育を行っている。 ・子どもの気持ちを尊重し思いを聞いてあげ、気持ちに寄り添った。 ・子どもとのやり取りの中で、スキンシップを心がけ、家庭環境によっては多く求める子どもには時間をかけて対応できた。	
保育の内容	・各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成し、保育を行った。 ・配慮が必要な子どもには個別計画を作成し、保護者の変化や次年度へ繋ぐ方向性を見いだせた。 ・生活の中で、身替えや排泄など見守りながら行ったり、援助を必要としている子どもには、「自分でできた」という達成感が味わえるように配慮することができた。 ・生活やあそびを通して、数・量の感覚が身につくような活動を取り入れた。 また、あそびを通して、順番を守るなどの社会的ルールを身につけられるように配慮した。 ・園庭で遊ぶときや戸外に行く際は安全面に気をつけ、その都度約束を伝えて活動させることができた。 また、散歩に行く際は「園児の人数・職員の人数・行先・戻る予定時間」を伝えて行き、戻ったときは帰園したことを園長・主任等に報告することが習慣化した。 園外保育時は、必ず人数確認をし、通常の保育の中でも人数を把握しながら保育することを心がけた。 ・乳児保育は一人一人の生活リズムを大切にしながら、保育することが出来た。 特定の保育士と継続的に関わることで、安心して一日を過ごすことができた。 ・玩具や遊具、テーブルや椅子の消毒をこまめに行い、日頃から感染予防に取り組んだ。 ・遊具環境点検を行うことで事故や怪我を防止することが出来ている。	・集団生活の中で、一斉に行う活動が難しい子どもに対しての対応について職員間での共通理解が必要である。 ・子どもと一緒に活動する際に、子どもが安全に遊んでいるかトラブルが起きないかを見守っている状況が多く、子どもと思い切り遊べていない時もある。

	評価すべき点	課題点
養護に関するねらいと内容	・登園時には健康観察を行い、体調不良後の登園時には様子を詳しく聞いて受入れしている。 ・登園時に泣いて保護者から離れられない子に対しては、子どもの気持ちを受けとめてあげながら受け取っている。その後も、落ち着くまで傍につくなどして安心できる環境を作っている。 ・室内と戸外との活動のバランスを考えながら、生活をしている。 ・園庭出たり、公園に行ったりして戸外に出る機会を作っている。夏は水遊びをすることで、身体を冷やして気持ちよさを実感させることができた。 ・気温や湿度の変化によって、空調を利用したり窓を開けて換気をして、子どもたちが活動しやすい環境をつくるように努力している。 ・食事の前や排泄後の手洗いの大切さを知らせ、清潔への習慣が身につけられるように促せた。 ・食事は無理をさせずに食べられる量を盛る事で、完食できたという気持ちを持てるように促すことができた。 また、食具は年齢によって使い分けているが、個人差を考慮して使用させていった。	・制止をする「だめ」や「いけません」は不用意に使わないようにはしているが、咄嗟のときに制止する言葉がでてしまうことがあるので、違う言葉で言い換えしていく。 ・夏場は熱中症の危険もあるため、戸外での活動の時間がとれないこともあった。水遊びを工夫することで、夏の季節を味合わせていく。
教育に関するねらいと内容	・公共の場での大切なルールや約束を園外保育や散歩などを通して教えている。 また、生活に必要な挨拶が出来るように、保育の場面において身につくようにした。 「ありがとう」の言葉は素直に出ても、「ごめんなさい」の言葉が出ないときは、強制することなく、相手の気持ちに気づかせながら言えるように促すことができていた。言えたときには、褒めることもできていた。 ・日々の子どもの状態を把握する中で、表情がいつもと違うときは、寄り添いながら気持ちが安定するような声掛けをすることがきていた。 ・製作等を行うときに、様々な素材を使うことによって、手触りの違いなどを感じられるように取り組むことができた。 また、ハサミの使い方がぎこちない子については側につくなどして見守りながら、達成感を味合わせることができていた。	・子どもに寄り添った関わり方が不十分な時があり、気持ちに余裕を持ち、より子どもと遊んだりしてじっくりと寄り添えるようにする。

	評価すべき点	課題点
保育の計画及び評価	・園の保育方針や全体的な計画に基づいて、クラスの年間目標を立てて保育している。 また、指導計画は反省評価をして、翌月に織り込まれて作成できていた。 ・発達過程や気になる子どもについては、個別の指導計画を作成した。 ・子どもの気になる様子や、その日にあった出来事などをクラス内の職員や他クラスの職員と共有することができていた。	・クラスの年間計画を作成するときに、全体的な計画を十分に理解して立案していく。
健康と安全	・子どもの健康状態や生活リズムを把握し、特に未満児は午前中に睡眠が必要な子どもに対しては、眠気を催したときに睡眠がとれるように配慮した。 ・戸外で活動する時は必ず人数確認をし、約束事項を伝えるようにし事故防止に努めた。 ・排泄が自立している子どもは、排泄の欲求に合わせてトイレに行かせている。自立していない子どもは、時間で行かせていたが「でない」と言ってるときは子どもの思いに寄り添った。 ・年長児はクッキングやコックさんの活動を通して食材に触れたり、作る人の気持ちになって活動することができていた。年長児以外も、夏野菜が育つ様子を見て、実った野菜に触れて感触を感じることができていた。	・毎月の環境点検を行い、室内外の危険個所を把握できたが、すぐに修理できないことあった。
食育	・食物アレルギーの子どもの食事の提供については、保護者・担当職員・栄養士と連携して適切な食事の提供が出来ていた。 また、除去食対応の食器の色を変えて、間違えのないようにした。 ・一人ひとりの食べられる量を把握し、献立や食材によっては減らしたり、食べられる子どもはおかわりが出来るような環境を作った。 ・食事検討会を通して、栄養士と職員の連携を図った。	・食器の数の間違えが多くあった。除去食対応の子どもも多くなり、時間に追われてしまうが、間違えのないように努力していく。
保護者に対する支援	・各クラスとも個人面談の月を決めて行うようにした。また、保護者からの要望があればその都度、面談の時間を設けた。 ・送迎時は、毎日ではないが子どもの様子や頑張っていたことや出来るようになったことなどを伝えるように努力した。 ・保護者からの要望に対して、全てを拒否するのではなく保護者の思いを聞いて改善できるようにした。 ・バースデー保育を行い、クラスの様子や子どもたちの活動を見てもらった。	・園の決まりはあるが、はじめは保護者の要望も聞いてあげ、改善できる部分について話し合っていく。

	評価すべき点	課題点
職員の連携 資質向上	・保護者との相談内容は面談の前に園長又は主任が把握して面談を行った。内容もケース会議等を通して共有することができていた。 ・クラス間で気軽に相談しあえる雰囲気づくりをし、疑問や困ったことなどを共有できた。 ・キャリアアップを受講し、専門意識を高める努力をした。	・自分の考えが言えない職員もいるので、誰でもが言いやすい環境にしていく。
保育士の責務（適切な保育のために）	・守秘義務については会議等できちんと説明し、園内で知り得た情報は園以外の人には話さないように伝えた。 ・子どもと一緒に遊ぶことで、気持ちに寄り添い思いを理解しようと努めた。 ・子どもの発達や成長に関する書類は、その都度記入し事務所に保管されている。 ・子どもの名前は、呼び捨てにせずに「～くん」「～ちゃん」と呼んで保育した。 ・子ども一人ひとりの育ちや成長を把握し、その子にあった援助をした。 育った環境が違うので、活動の中でぶつかる子どもたちもいたが、お互いの思いを聞くことで落ち着かせて活動できるように促すように努力した。 ・子どもに対しての強い言葉がけはしないように努力した。	・子どもの前で名前を呼び捨てにすることはないが、職員間の会話の中では出てしまうこともあるので意識をして会話をしていく。 ・繰り返し言葉をかけたり、注意をしたり、友だちへの乱暴な行動が繰り返されたときは、強い口調になってしまうこともあったので、気をつけていく。 ・その時に合った声の大きさで保育を行えるように意識する。